

◇第2回学校関係者評価委員会での評価と意見聴取（1月28日）◇

1月28日（火）に開かれた学校関係者評価委員会において、学校評議委員の皆様から、取組の評価とご意見をいただきました。

6つの重点項目に関わるご意見と対応策、委員会で確認した成果と課題について報告いたします。

確かな学力

- ・学習指導の中で、規律を大切にしてほしい。
- ・子どもたちの良いところを褒めたり集団の中で取り上げたりし、評価する時間があるとよい。
- ・学習が自力で進まない子どもには、指導者から声かけをして「できる」ようにして欲しい。子どもたち同士の教え合いの場面を作ることも有効である。

→学習が深まるように、学習規律を整え、子どもたち同士で伝え合う経験を何度も重ねていくようにします。また、指導者は常に子どもの様子を見取り、今後も個に応じた指導・支援を続けていきます。

豊かな心

- ・放課後における商店や公共の場での子どもたちの行動が気になる。地域の商店で過ごっている場面を見かけた。子どもたちの良好な関係を築くためにも指導してほしい。
- ・授業では表現力の向上が見られるようだが、学校以外でも、伝える相手との関係や場に応じた表現ができるように指導してほしい。

→全校の場で、お金の使い方についてや地域での挨拶、場に応じた言葉遣いができるように話をしました。今後も様子を見守っていきます。

健やかな体

- ・ゲームやインターネットに関するアンケートにおいて、保護者と児童・教職員との間で達成度に差が現れている。アンケートには、家庭でのネット機器管理の状況に危機感が反映されているのではないか。
- ・家庭でのインターネットの使用については、保護者が見守るべきである。家庭で決めたネットルールを日常的に確認していく必要がある。
- ・家庭でネット利用を考え見直す週間の「ハッピー貯金」の取組は、大変有効である。子どもたちが自主的にメディアルールを守ろうとする一週間になっている。

→メディアルールに関しては、保護者や地域との連携が大切です。子どもたちの意識がより向上するために、学校としてどんな取組をしていけばよいか、今後も全職員で考えていきます。

安心・安全な学校

- ・被災後から子どもたちはさまざまな経験をしてきた。この頃は、いろいろな人々の関わり方を学び、成長した姿が見られるようになった。
- ・今年度は、義援金などの支援があり子どもたちにとって楽しい活動が多く実施できたり、教育環境も整備できたりした。次年度も同じようなことができるのか心配であるが、できる限り子どもたちが楽しめる活動ができるようになればよい。

→来年度も子どもたちが充実した学校生活が送れるように、予算との兼ね合いも考慮に入れながら主体性を育む活動を積極的に取り入れていきたいと思います。

家庭地域との連携

- ・家庭での読書に課題が見られるが、その分、学校でたくさん本に触れる機会を作ってほしい。
- ・家庭での読書の評価が低くなったのは、インターネットの利用や季節的なことも原因にあるのではないか。

→今後も、読書に親しめるような活動について図書委員会を中心に取り入れていきます。

組織力向上と働き方改革

- ・令和4年度からの3年間に於いて、管理職が毎年異動し変わっている。学校長の学校経営ビジョンが毎年変わること、6年間を見通した教育方針になっているのか心配である。異動した場合は、確実に引き継ぎを行ってほしい。

→3学期は、次年度の0学期でもあるので、来年度に向けた学校経営ビジョンを3学期中に職員と共有し、スムーズに来年度へとつながるようにしていきます。

2 成果と課題

《成果》

- ・児童・保護者・教職員のアンケートを通して、漢字や計算などの基本的な力は身につけていると感じていることが伺える。2学期の漢字・計算コンテストの合格率90パーセント以上を目標とし、児童の力に即した課題の設定、タイムリーな評価が功を奏したと考える。今後も基本的な力が身につけているかを見取るために各テストや授業場面にて確認する場を作り、日常的な指導を続けていきたい。
- ・「個に応じた指導（教職員）」「子どもの特性に即した指導支援（保護者）」「困ったことを相談する（児童）」の内容において、前回から評価が上昇した。前回のアンケート結果や児童理解の情報などをもとに、気になる児童への教員やスクールカウンセラーによる複数体制での面談や見守り、見取った情報を生かした支援・指導を行ってきた。今後も継続していく。

《課題》

- ・「ゲームやネット利用」に関する保護者のアンケートの評価が前回より下降した。学校においてはメディアルールを考え見直す取組は実践している。しかし、その後の評価や追加指導は行っていない。今後、実態の検証や評価、個別指導などを行っていく必要がある。
- ・児童の「ふるさと学習を積極的に取り組んでいる」のアンケートの評価がやや低かった。2学期には総合や生活、道徳などで様々なふるさと学習の機会があり、児童は郷土について考え思いを持っていた。積極的でないと感じている児童に対しては、実施してきた活動の価値付けをし、今後も郷土に興味を持ち意欲的に取り組めるようにしていく。